

### 高尾山富士浅間社鳥居・玉垣落慶奉告表白

敬つて、真言教主大日如来・両部界会諸尊聖衆・本尊飯繩大権現、殊には當山鎮座浅間権現、乃至、自界他方の権実二類、總じては開山行基菩薩等、佛眼諸照一切の三寶の境界に白うして言うさく。夫れ惟れば、浅間権現と者、三國第一山にして金剛不壊の秀麗を現じ、大悲胎藏八葉九尊を化す鎮国の嶺、自然法界・理智不二の垂跡たり。役君聖者の開山にして苦修、得験を練り、田村麻呂公、征東の戦勝を祈りて遙拜す。歴帝・大名は鎮国の社を山裾に整え、その利徳無尽を現し末社数千となる。

抑々、高尾山浅間社は、中興第六世慶尊和尚の天文年間、北条氏康の命により勸請せらるものなり。甲斐国郡内・富士吉田の御師衆、武蔵の地へ留まり當山を富士信仰の拠点として権現の神徳を弘めたり。況や、この神縁を持って関東一円の富士信敬の者、歩みを當山へ運び、神冥の利生妙用を示し、顯現限りあること無し。日と輝き月と照る其の光、戴かざる者なし。

然りと雖も、星霜幾久しく、玉垣の荒廢免れず。茲に、護持法主、修築を朽廢に加えて再建を願ひ、十方崇信の御信徒、複舊に喜捨を惜しまず工既に成る。玉垣・鳥居の莊嚴亦た爰に復して威儀儼然の粧いたり。仍て今、本尊飯繩大権現の御前に般若の妙典を誦じて罔極の神恩に報じ、懇念禮奠の至誠を致して威光倍增を乞う。仰ぎ願くは、本尊末資が無二の信心を照覽して攝化衆生の法益を施し給え。

乃至法界 平等利益

平成三十年五月十六日

高尾山中興第三十二世 成満大先達 隆玄 敬白



参列された大勢の方々



表白を奉読する菅谷執事長

### 高尾山富士浅間社鳥居・玉垣 完成記念修復落慶法要厳修

五月十六日(水)



新たな鳥居・玉垣完成を祝し落慶法要が執り行われる



奉納された方々の名が記された玉垣と十界修行を表す石碑



五月十六日、高尾山上の富士浅間社において鳥居・玉垣の完成記念修復落慶法要、及び大本堂において慶祝大護摩供法要が、菅谷執事長御導師のもと執り行われました。

この修復事業は、平成二十八年に富士登拝修行が十箇度を迎えたことを記念して、長年風雨に曝されて損傷の著しかった鳥居と玉垣を修復するため、大勢の方々より賜りました浄財によって行われました。

当日は、北口本宮富士浅間神社の上文司厚宮司や真言宗智山派前宗務総長の小宮一雄僧正、また神道扶桑教などの富士講に関わる方々と共に、訪れた大勢の奉納者が完成を祝しました。

北条五代記によると浅間社には、高尾山への信仰が篤かった北条氏康により、天文年間（一五三二〜一五五五）に浅間大権現が勧請されたと伝わります。それは戦国時代

に北条氏と武田氏の抗争により、武蔵野国（現在の東京都、埼玉県と神奈川県の一部）と甲斐国（現代の山梨県）が乱国となり、国境に關所が築かれ、富士参詣路が絶たれたからです。

江戸時代においても、高尾山に残された古文書である『年々諸用記』等に、富士参詣者が大勢高尾山に参籠されたという記録が残っております。現代へと時が移り替わっても、高尾山修験道による富士登拝はこの浅間社より始まり、徒歩で五泊六日の行程で行われております。

浅間社の周囲には今回新たに、富士山で行われている十界修行を表した石碑が建立されました。浅間社参拝の折には、富士山のモニュメントを頂いた石碑の石車を回して、浅間大権現の功徳を頂き、家内安全・身体健康・商売繁盛などのお願ひ事を御祈願申し上げてください。